

DSPハイブリッド・システム ティスポーター処理槽以外の施設で採用されました！



リゾート施設 合併処理施設に採用

施設概要		(リゾート施設)	
計画汚水量	750m ³ / 日	単位：mg/l	
流入水質	BOD:210 COD:150 SS: 250		
処理水質	BOD:5以下 COD:5以下 SS: 10以下		

弊社開発のDSPハイブリッド・システムは、臭気の削減及び水質の改善に効果を発揮致します。さらに、汚泥の減容効果を実証されています。今回はリゾート施設の合併処理槽の汚泥減容に採用されました。

汚泥貯留槽、汚泥濃縮槽及び沈殿槽に堆積する余剰汚泥（約200m³）を限りなくゼロに近づけて、汚泥の場外搬出を無くすることが目的です。



都内除害施設に採用

東京都内・複合建物の下水道除害施設で、流入水の負荷変動に関わらず、水質の安定を確保するために採用されました。2ヶ月の実証テストを経て本格採用となる予定です。

リゾート施設・都内除害施設の両案件とも、DSPハイブリッドシステムの運転は6月1日より開始致します。

その経過報告は、後日、本ニュースで報告させていただきます。

水物語 No17 長良川、流域に点在する輪中とは……。



木曾・長良・揖斐の三川が合流する輪中地帯

長良川は、岐阜県郡上市の大日ヶ岳に源を発し、三重県を経て揖斐川と合流し伊勢湾にそそぐ木曾川水系の一級河川です。濃尾平野を流れる木曾三川の一つです。尚、下流の一部では、愛知県にも面し岐阜県との県境をなしています。 流路延長は166km、柿田川、四万十川と共に日本三大清流として、鶴飼として有名な川はご承知のとおりです。

濃尾平野の西南部では、低湿地に木曾三川が集中し、排水が悪くしばしば洪水の被害をこうむってきた。河川は氾濫した土砂を堆積させ、旧河道と自然堤防と後背湿地が網の目のように発達している。農民たちは古くから自然堤防などの微高地に集落と耕地をつくってきた。

輪中は水害から守るため、集落や耕地の周囲を堤防で囲んだところのことをいい、この堤防を輪中堤という。濃尾平野では、河口からほぼ45kmの内陸にある岐阜市から伊勢湾までに大小45の輪中が連なっています。こうした堤防は下流からの浸水には全く無防備であったが、耕地は冠水しても土砂による埋没・荒廃は免れ、反面、肥沃な土壌が堆積して地力はむしろ年々更新されていった。輪中は、水害から身を守る農民たちの発想から自然と生まれ、洪水対策で威力を発揮し、現在の堤防や干拓地づくりに引き継がれているようです。

資料：ウィキペディアより引用

豊臣秀吉は、鴨川の氾濫に備え京都に「御土居」を構築しました。輪中は、それに似ているように思えます。秀吉は京の町割りを変え、市街地を高い土塁で囲みました。この全長22.5kmに及ぶ土塁を「御土居」といいます。これによって、洛中と洛外が画然隔てられたそうです。

東京都中央区新川1-16-8 KSビル 6F
汚泥ゼロ・臭気ゼロ
ハイブリッドシステム推進中！
株式会社クリーンテックサービス